



# 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号(DC会館)

電話 (鉄電) 千葉2935・2939番  
(公) 043(222)7207番  
FAX 043(224)7197番

2000.11.6 No. 5219

## JR総連と決別し、動労千葉へ!

# JR総連に何が 起きてきているのか

### 九一年以来の組織 崩壊の最終段階!

九州労組の組織崩壊は、起きてい  
る事態があまりにも劇的なため、一  
部では「革マルによるJR連合への  
偽装加入戦術だ」「潜り込み戦術か  
もしれない」という見解が表明され  
ている。だがそんなことは一〇〇%  
あり得ない。「加入戦術」どころか、  
JR総連そのものが大崩壊の淵にた  
っているのだ。

JR総連・革マルは、91年から92  
年にかけて、西日本、東海、九州、  
四国で使い捨てられ、ごく少数派に  
転落した。四国などは92年の時点で  
そっくり脱退し、消滅してしまっ  
ている。95、96年には東日本にも飛び  
火し、96年には東労組中執で、旧鉄  
労系・社員労系の役員が統制処分さ  
れる事態が起き、以降東労組内では、  
「組織内の組織破壊分子摘発運動」や  
「平和共存打破運動」、「プラプラ連  
合解体運動」など、徹底した組織統  
制運動が展開されることになる。し  
かも、革マル派による盗聴問題や、  
列車妨害事件の多発、JR総連と革  
マルが非難を投げ付け合うなど、異  
様な状況が、JR全体を覆うことに

なった。  
この異様な事態全体を裏で仕組み、  
取り仕切ったのは明らかに、東労組  
会長の松崎明である。

### 「東日本を守れ」を 唯とす矛盾

こうした状況のなかで、この間J  
R総連・革マルは松崎がとった組織  
方針は、どんな手段を使っても、  
JR東日本における資本と東労組・  
革マルの結託体制を維持すること  
唯一絶対の基準として、JR西日本  
や東海、九州、貨物などのJR総連  
組織は、そのための捨て石とする  
というものであった。

東労組だけは労使一体の関係を  
つけながら、西日本や東海、九州な  
どにはそのときの都合によって、「  
対決姿勢」をとらせたり、逆に自己  
批判を迫ったりを繰り返すような、  
革マル・松崎特有のやり方が、当然  
の結果として、ついにその矛盾を噴  
出させたのである。

### 革マル―松崎路線 の必然的結果だ

そもそも、いくら国鉄分割・民営  
化という戦後最大の労働者の首切り

攻撃、労働組合運動への解体攻撃に  
全面協力した論功行賞とは言え、J  
Rと革マルが結託して労働者を支配  
するというような異様な関係が永遠  
につづくなどということは絶対にあ  
り得ないことだ。

今回の事態の特徴は、それが単に  
資本から使い捨てられるというベク  
トルだけではなく、十数年間にわた  
って資本と癒着してやりたい放題の  
ことをつづけた結果、革マル自身が  
組織内部から崩壊をはじめるとい  
う方向からその矛盾が噴出したとい  
点にある。松崎はなぜかこの間ずつ  
と沈黙をつづけている。これまでは  
支配者然として発言していたが沈  
黙すること自体卑劣として言いよう  
がないが、これは明らかに松崎路線  
の必然的結果だ。一切の責任は松崎  
にあることは明らかだ。

その意味でも、東労組こそ最も激  
しい矛盾を抱えていることは間違  
いない。

### JR総連の大 崩壊の始まり

しかし、同様の矛盾が最も大きく  
ウズをまき、堰を切つてあふれだそ  
うとしているのは実は東労組だ。  
東労組は、大塚新体制からは、労使

共同宣言を結ぶことも拒否されてお  
り、今までと同じような結託体制を  
つづけることはもはや不可能だ。

だが、矛盾が噴きだしているのは、  
資本との関係だけではない。一方で  
資本との異様なまでの癒着・結託を  
つづけながら、他方では沸き上がる  
疑問の声や怒りの声を徹底した組織  
統制で抑えつけ、「国労・JR連合  
解体運動」のみに駆りたてるような  
やり方は、もはや限界に達している。  
東労組の若い組合員は、今怨嗟の  
念を込めて自分の組合を次のように  
語っている。「ウチの組合は宗教法  
人東労組ですから」「うちの組合は  
オウム東教だ」「ウチの役員はハイ  
ルヒトラーですから」「ウチの役員  
はみんな頭にマイクロチップを埋め  
込まれている」……。

九州で劇的に始まった事態は、本  
丸東労組をはじめ、JR総連全体  
の大崩壊の過程がいよいよ始まった  
ことを示しているのだ。

### より一層 会社の手先に!

革マルは、国鉄分割・民営化の過  
程で、自民党や国鉄―JR企業やと  
手を結ぶことによってJR総連の権  
力を手にし、「この世の春」を謳歌し  
てきた。

国鉄の解体と20万人に及ぶ国鉄労  
働者の首切りという、戦後最大級の  
労働者への攻撃が貫徹された最も大  
きな要因は、「総評の鬼っ子」と言  
われた旧動労が裏切り、転向し、差別  
・選別―首切りの手先となつて、国  
労や動労千葉に襲いかかったこと  
にあった。

以降今日に至るまで、職場で吹き

荒れた不当労働行為や大合理化攻撃

など、あらゆる攻撃が、旧動労・革マル勢力が支配するJR総連を手先としたJRの結託体制によって、JRに働く全ての労働者に強制されるという構図が形成されてきた。

乗務員勤務制度の抜本的な改悪への大裏切り、「シニア協定」や鉄道業務の全面外注化への大裏切りなど、JR会社との関係が危機に達した。JR会社との関係が危機に達した。JR会社との関係が危機に達した。

一〇四七名の解雇撤回闘争を激しく妨害しつづけたのもJR総連・革マルであり、「結託体制」であった。

### 新たな御用組合

### は必要ない！

そして今、いよいよ東日本を含めたJR総連の大崩壊が始まるようになっているのだ。国鉄分割・民営化以来強いられてきた困難な状況をはね返す絶好の情勢が到来している。

とくにJR東日本の場合、鉄産労の組織率がごく少数に過ぎないこと等、JR連合への統一による御用組合化という条件はない。また、会社と組合が一体となって理不尽に抑えつけられてきたJR東労組の組合員も、新たな御用組合など望んではいない。労働組合らしく働く者の権利を主張し、労働者の利益を代表するような労働組合を望んでいる。労使一体で支配される職場ではなく、胸を張って言うべきことを言える職場

を望んでいるのだ。

### 今こそJRに闘う労働組合を！

われわれは、「シニア制度」や鉄道業務の全面的な外注化をはじめとした大合理化攻撃との組織をあげた闘争体制に突入する方針を決定し、この30日にはストライキの事前通知を行った。

また11月5日には、全国労働者集会を呼びかけるなど、闘う労働組合の全国ネットワークをめざす取り組みを展開している。首切り、賃下げ、権利破壊など、大リストラ攻撃にさらされている全国の仲間たちとともに、労働者の団結を取り戻し、闘う労働運動を甦らせたいというのがわれわれの願いだ。

その第一歩をJRのなかから創りだそう。今こそJR総連の革マル支配に怒りの声をあげよう。JRに闘う労働組合を甦らせよう。今こそJR総連と決別し、闘う動労千葉に結集しよう。

# 国労大会 4党合意 三たび採決できず

10月28-29日に開催された国労定期全国大会は、4党合意を受け入れるか否かをめぐる攻防の焦点となったが、闘争団を先頭とした怒りの声の前に、三たび「4党合意受諾」方針を採択することができないまま休会となった。

国労本部執行部は、4党合意を強引に採決しようとしたが、闘争団切り捨てに対する怒りの声、当日の議事運営に対する怒りの声が噴出し、大会は何度にもわたって中断。経過報告を採択しただけで、方針討議に

も入ることができないまま、時間切れ休会となった。

労働組合の指導部がおしなべて総屈服に走る状況のなかで、この攻防は、一〇四七名闘争のみならず、すべての労働者の未来をかけた闘いだ。現場からの怒りの声が、国労執行部の全面屈服方針をつき動かし、打破しようとしている。

政府・自民党による4党合意攻撃を最後のりに葬ろう。一〇四七闘争勝利に向けた新たな展望を切りひらこう。

## 「4党合意」採決できず

### 国労定期大会 政治解決遠のく

日経 4/30



東京、水田町で開かれて二万五千人の定期大会は、新執行部を擁護する声と、旧執行部を擁護する声とが激しくぶつかりあっていた。二日目の二十九日、反対派は「4党合意」を採決しないよう求め、大会を中断させた。執行部は「4党合意」を採決するよう求め、大会を再開させた。二日目の二十九日、反対派は「4党合意」を採決しないよう求め、大会を中断させた。執行部は「4党合意」を採決するよう求め、大会を再開させた。